

GUIDER ZERO 作業中図面の自動保存

GUIDER ZERO には、作業中の図面を一定間隔、あるいはコマンドの起動回数などの指定したタイミングで、自動保存できる機能があります。（自動保存するファイルは最大5つ、トグル形式で保存します。）

作業中にOSがフリーズしたり、強制終了してしまった場合など、万が一の非常事態が起きててもデータの損失を最小限にとどめることができます。ぜひ、この機能をご利用ください。

※『自動保存設定』は、GUIDER ZERO Ver.2.2.0.0 より搭載された機能です。Ver.2.2.0.0以前のバージョンをご利用のお客様は下記URLよりアップデートを行って下さい。
<https://annex.nikon-trimble.co.jp/online/guider/ap.html>



1. 『自動保存設定』を開く

リボンの【ファイル】より【自動保存設定】を開きます。

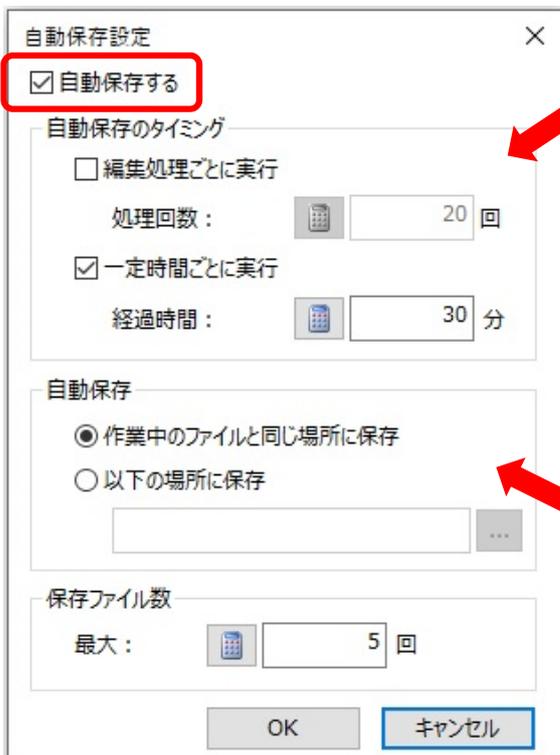


※リボンのファイルを選択しても『自動保存設定』の表示がない場合は、リボンの『編集モード』をクリックした一覧より『リボンのユーザー設定』を起動して『リセット』を実行するか、手動で『自動保存設定』コマンドの追加を行ってください。

■メニューバーでお使いの場合

メニューバーの【ファイル】より【自動保存設定】をクリックします。

2. 『自動保存する』にチェックを付け、自動保存の設定を確認します。



《自動保存のタイミング》について

自動保存を実行する方法と、その条件を設定します。自動保存は、チェックを付けている項目の設定で行います。

『編集処理ごとに実行』

処理回数に設定した回数だけコマンドを起動すると、そのコマンドを終了したタイミングで自動保存を実行します。設定できる処理回数は【1～100】回までとなります。

『一定時間ごとに実行』

経過時間に設定した時間が経過する毎に自動保存を実行します。設定できる時間は【10～120】分までとなります。

『編集処理ごとに実行』と『一定時間ごとに実行』は、同時に利用することもできます。両方の設定にチェックを付けて有効にした状態では、先に条件を満たした方のタイミングで自動保存を実行します。

※自動保存を実行した時点で、「処理回数」や「経過時間」のカウンタはリセットします。また手動で「上書き保存」を行った際も、それまでのカウンタはリセットします。

《自動保存》について

自動保存するファイルの保存先を設定します。

『作業中のファイルと同じ場所に保存』

現在作業中の図面と同じ場所に自動保存する場合に選択します。

※新規作成した図面で作業中の場合は、以下の場所に保存します。
C:\%Users% (ログインユーザー名) \Documents\%Guider

『以下の場所に保存』

常に指定した場所に図面を保存します。保存先にドライブルート（「C:\%」など）やネットワークドライブを指定することはできません。

※保存先が見つからない場合は自動保存に失敗しますのでご注意ください。

《保存ファイル数》について

自動保存として残すファイル数を設定します。

設定できるファイル数は【1～5】枚までとなります。保存ファイル数に設定した数の自動保存ファイルを作成した後は、古いファイルから順番に上書き保存を繰り返していきます。

※作業中の図面を開きなおしたり、「名前を付けて保存」・「上書き保存」を実行すると、自動保存するファイル数のカウントはリセットされ、新たに自動保存ファイルを設定した枚数だけ作成します。

自動保存の新しい設定を有効にする

『OK』をクリックして、自動保存設定の設定変更を有効にします。

- ・『自動保存する』にチェックを付けて『OK』で閉じると、自動保存が有効になります。
- ・『自動保存する』のチェックを外して『OK』で閉じると、自動保存は行いません。

自動保存設定で行った変更内容を破棄する場合や、設定内容を確認のために起動した際は、『キャンセル』ボタンで終了してください。

※ ご注意ください

作業終了時には、必ず通常の図面保存（名前を付けて保存/上書き保存）を行ってください。

自動保存を実行するタイミングによっては、一部のデータ（観測中の未確定データなど）は保存されていません。詳しくは下記の「自動保存に関する補足説明」をご覧ください。

自動保存に関する補足説明

- 自動保存を実行するタイミングについて
コマンド起動中は自動保存が実行されません。コマンド終了時に設定した一定時間、またはコマンド起動回数の値を超えると自動保存を実行します。
- 自動保存の実行中について
自動保存が実行されている間は全ての操作を行うことはできません。ファイルサイズが大きい図面で作業されていると、自動保存に時間がかかり少しの間コマンド操作などができなくなる場合があります。自動保存が原因でコマンド操作の中断が頻繁に生じる場合は、自動保存のタイミングにある「処理回数」・「経過時間」の設定を変更し、自動保存を実行する間隔を長くするなどの調整を行ってください。
- 観測中の自動保存について
観測点や野帳データは、観測と同時に確定（登録）されているため必ず保存されます。ですが、以下のように観測作業がまだ確定していないデータは保存されません。ご注意ください。
 - ・属性観測やストック観測では、指定した属性やストックデータの観測が確定するまで作図データは登録されません。
 - ・平行観測の測点や交点計算情報は、平行線が確定するまで平行線の測点や交点計算情報は登録されません。
- 自動保存するファイル名について
自動保存するファイル名は、作業中のファイル名と保存日時を利用して自動生成します。
 - ・既存図面で作業中の場合、以下の名称ルールで保存します。
保存名： 既存図面のファイル名_西暦（下2桁）月日_時分
例： ○○現場_220517_1532.NTG（ファイル名：○○現場.NTG、自動保存日時：2022/05/17 15:32:41）
 - ・新規図面で作業中の場合、以下の名称ルールで保存します。
保存名： 西暦（下2桁）月日_時分
例： 220517_1532.NTG（ファイル名：なし（新規図面のため）、自動保存日時：2022/05/17 15:32:41）
 - ・既に同じファイル名が存在する場合は、ファイル名の末尾にカウント数値を付加して保存します。
例： ○○現場_220517_1532 (1) .NTG